藤永田の勞働爭議

酒氣を帶た職工が少くなつた

相變らず罷業繼續

藤永田造船所に於る勞働爭議は愈々重大化し來れば直ぐ會見して回答するのは勿論であるがその回答内容は何んにも新しい事も變つたこともない何しろ會社は

慎重に協議した結果を回答してゐるのであるから初めから決して懸引をしてゐないことを斷言する、尚今日會見するとなれば賀川氏も立會ふであらうが何分早く何んとか解決し度いものだ、工場内は相變らず

罷業を續けてゐるが初めの如く酒氣を帶びたものなんぞは段々少くなつて來て一般職工が温和しくなつた」云々尚同工場數津分工場及び永田町なとには何れも數十名の警官が物々しく警戒の目を光らしてゐるが

全體の氣分は追々落着いて來たらしく見えるがしかし内部の爭議は暦一暦深刻の度を增して行くとも視られる

加々美特高課長訪問

數時間に亘つて陳情

職工代表委員村田外數名は七日午前府警察部に加々美特別高等課長を訪問し數時間に亘り陳情する處ありたれば或は大電當時の如く同課長の仲裁にて無事落着を見るに至らんと云へり

酒氣を帶た職工が少くなつた

相變らず罷業繼續

藤永田造船所の勞働爭議は未だ解決の曙光をさへ認めることは能はず職工側は會社が飽くまでも

誠意を缺きて要求條件に對する骨拔的の回答によつて一時を糊塗するものなりと主張し會社側にて最初より出來得る限りの讓歩をなし誠を盡して要求に對する回答をなしつゝあるに職工側は尚この上

紛擾に日を重ねて一刻も早く罷工をなすほ其の意を得すといふにあり、加藤之加賀氏の提出せる調停も其の効を奏せず物別れとなり遂に別記の如く友愛會よ

交渉が不調に終りたりと聞くや六日職工側は更に協議會を開き最に提出せる要求案十一ケ條に二三字句の修正を加へ之れを第二回要求案として七日正午までに「誠意ある回答を求む」との希望を附して提出せしが

その回答期たる七日正午を過ぐるも職工側の交渉委員は全部參集せず會社側は稍力拔けの態にて交渉委員の來たるを待ちつゝあり右につき新炭屋町の工場にて本橋總務課長は語る「未だ交渉委員が見あないので回答が出來ない、何でも職工側は

大分軟化したらしい——といふのは委員の一部は既に茲に來て他の委員の來るを待つて會見しやうといふことになつてゐるらしいが他の委員といふのは今何處にゐるのか多分電飯でも喰つて協議してゐるのだらうが

揃はない所に何か理由があるらしい、委員が揃つて

友愛會は陣容を整へて

鈴木會長十一日來阪

藤永田造船所に於る勞働爭議は愛書の解決の相違より遂に交渉不調に終り調停者たる賀川豐彦氏も其の手を引くに至れるが右に對し

友愛會にては急遽來阪せる松岡本部理事を中心として新陣容の確立につき協議を凝し居れり松岡理事は語る今回の爭議の如く官憲の壓迫と横暴とは餘り其例を見ませぬ關西の方では首腦者が檢束されたとの

急電がありました

ので取るものも取り敢ず來阪したのですが今日只今の形勢を見ても雪に愛遭に耐えませぬ川崎造船所二の轍をやらぬとも限りません友愛會今度こそはその決心で

陣容を整へて決心です具體的の事は十一日に鈴木會長が來阪するから其上で決定する筈ですが今日の形勢より見れば第三回第四回の要求書を提出しても同じ事ですから或る所は吾れくとしても最後の手段を取るかも知れません云々